

教育心理学教室教官の研究状況報告

研究経過報告（平成6年8月～平成7年11月）

金井篤子

平成6年8月の助手着任以降、平成7年11月までの研究経過を報告する。

主な研究活動は、博士論文に向けての活動が中心で、研究テーマであるところの職場における職務ストレスとメンタルヘルス、キャリア発達、ワーカホリズム、ワーク・ファミリー・コンフリクトなどの概念を中心に研究を行った。

また、平成7年夏には、産業・組織心理学会の若手研究員海外派遣事業の適用を受け、Academy of Managementの第55回総会への参加、University of California, Santa Barbaraにおける文献の収集、および、共同研究者である Dr. J.T. Spence (University of Texas) とワーカホリックの日米比較研究を行うための打ち合わせを目的に渡米することができた。

以下はこの期間における発表論文、著書、学会発表である。

<論文>

金井篤子 1994 働く女性のキャリア・ストレス・モデルパス解析による転職・退職行動の規定要因分析－心理学研究, 65(2), 112-120.

金井篤子 1995 昇進をきっかけとして抑うつ状態を呈した一事例－職務ストレス研究からのアプローチ－名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要, 10, 141-148.

Kanai, A., Wakabayashi, M., & Fling, S. (in press) Workaholism among employees in Japanese corporation: An examination based on the Japanese-version workaholism scale, Japanese Psychological Research.

<著書>

金井篤子 1995 ストレスとコーピング 生越達美・二宮克美（編）こころの世界：現代を生きる心理学 ナカニシヤ出版 Pp.158-166.

<調査報告書>

若林 満・金井篤子・佐野幸子・松原敏浩 1995 パー

トタイム労働者就業環境実態調査結果報告書 愛知県労働部労働経済調査室.

梶田正巳・二宮克美・吉田直子・金井篤子 1995 子どもの入浴行動と父子の関係について(1) 父親アンケートの調査の報告 東邦ガス株式会社お客さまサービス部生活提案グループ.

梶田正巳・二宮克美・吉田直子・金井篤子 1995 子どもの入浴行動と父子の関係について(2) 子どもアンケート調査の報告 東邦ガス株式会社お客さまサービス部生活提案グループ.

若林 満・蔭山英順・金井篤子 1995 企業内シニアのキャリア・ストレスに関する研究 平成6年度シニアプラン公募研究年報 財団法人シニアプラン開発機構.
金井篤子 1995 不登校児等相談会活動報告 日本福祉大学心理臨床研究センター紀要, 4, 75-79.

坂井七香・金井篤子・若林 満 1995 企業のモラル風土と企業業績及び従業員のメンタルヘルスに関する研究報告書 産業教育保健研究会.

<学会発表>

金井篤子・榊原國城・渡辺直登 1994 従業員による企業内訓練制度の評価と満足度－キャリアプランとの関連において－ 産業・組織心理学会第10回大会

金井篤子・若林 満 1994 ストレスとワーカホリズムに関する研究(3) 日本社会心理学会第35回大会

金井篤子 1994 職場での生差とそれをめぐる問題 自主企画シンポジウム性差研究は何を解明しようとするのか(シンポジスト) 日本社会心理学会第35回大会

二宮克美・梶田正巳・吉田直子・金井篤子 1995 入浴行動にみる自立過程と親子の関係(5) 子どもの入浴行動の実態とお風呂観 東海心理学会第44回大会

金井篤子・梶田正巳・二宮克美・吉田直子 1995 入浴行動にみる自立過程と親子の関係(6) 父親への要望と父親の印象 東海心理学会第44回大会

金井篤子・若林 満 1995 企業内シニアのキャリア・ストレスに関する研究 産業組織心理学会第11回大会

金井篤子 1995 入浴行動にみる自立過程と親子の関係
(7) 父親のワーク・ファミリー・コンフリクト 日本
社会心理学会第36回大会
坂田桐子・黒川正流・鈴木淳子・金井篤子・石田英子
1995 ライフ・コースとキャリア形成過程の性差発生
機序に関する時系列的研究(1) 日本社会心理学会第36
回大会
吉田直子・梶田正巳・二宮克美・金井篤子 1995 入浴
行動にみる自立過程と親子の関係(8) 父親の生活実態
と子どもの父親への要望 日本教育心理学会第37回大

会
梶田正巳・二宮克美・吉田直子・金井篤子 1995 入浴
行動にみる自立過程と親子の関係(9) 子供の父親像と
父親のしつけ観 日本教育心理学会第37回大会
金井篤子・梶田正巳・吉田直子・二宮克美 1995 入浴
行動にみる自立過程と親子の関係(10) 自由画を通して
みた子どもの入浴観 日本教育心理学会第37回大会
金井篤子・若林 満 1995 女性パートのワーク・ファ
ミリー・コンフリクト 日本心理学会第59回大会

研究経過報告

川上正浩

1993年の11月から1995年の11月に至る2年間の研究経
過について報告する。現在大きく3つのテーマに関心を
持ち研究を行っている。

A. 視覚提示された日本語の情報処理について

この研究は個人研究の領域であると同時に共同研究の
領域でもある。日本語の情報処理過程、特に視覚的に提
示された語の認知に関心を持っている。本学人間情報学
研究科の齋藤洋典氏、増田尚史氏、Max Planck
InstitutのFlores d'Arcais氏とは、熟語の処理、
Migrationと呼ばれる誤った漢字の再認をキーに主に
漢字を対象とした研究を行っている。また本学教育学研
究科の藤田知加子氏とは、視覚提示された日本語の処理
の単位に関して共同研究を行い始めた。これらに関連し
て以下の論文執筆、学会発表を行った。

齋藤洋典・川上正浩・増田尚史 1994 漢字らしさに対
する人の意味情報処理 —Migration Paradigmにお
ける仮名との比較— 信学技報, NLC94-9, 15-22.

Flores d'Arcais, G.B., Saito, H., Kawakami, M.,
and Masuda, H. 1994 Figural and
phonological effects in radical migration with
Kanji characters. *Advances in the study of
Chinese language processing*, 1, 241-254.

Flores d'Arcais, G. B., Saito, H., and Kawakami,
M. 1995 Phonological and semantic activa-
tion in reading Kanji characters. *Journal of
Experimental Psychology: Learning, Memory,
and Cognition*, 21, 34-42.

齋藤洋典・川上正浩・増田尚史 1995 漢字構成におけ

る部品(部首)の出現頻度表 情報文化研究, 1,
113-134.

齋藤洋典・川上正浩・増田尚史 1995 漢字構成におけ
る部品(部首)・音韻対応表 情報文化研究, 2,
89-115.

齋藤洋典・川上正浩・増田尚史 1994 Letter migra-
tion in Kana Recognition. 日本認知科学会第11
回大会論文集, 166-167.

齋藤洋典・川上正浩・増田尚史 1995 Phonological
Effect in Radical Migration with Kanji
Characters. 日本認知学会第12回大会論文集, 186-
187.

藤田知加子・川上正浩 1995 漢字仮名混じり語の文字
検出課題における表記の親近性 日本教育心理学会第
37回総会発表論文集, 166.

川上正浩・藤田知加子 1995 仮名語の語検出課題にお
ける表記の親近性 日本心理学会第59回大会発表論文
集, 676.

B. 学習障害児の認知過程について

学習障害児の認知過程に関する研究は、聖徳学園岐阜
教育大学の辻井正次氏らとの共同研究である。学習障害
児の発達援助を考える上では、そのサブタイプ化が必要
となる。本プロジェクトでは、そのサブタイプ化を認知
過程の面から行うために、学習障害児に対して認知課題
を課す実験を実施している。この研究は臨床心理学と認
知心理学の領域を越えた研究であり、このテーマに関連
して、以下の発表を行った。

小池理穂・川上正浩・行廣隆次・辻井正次・後藤秀爾・